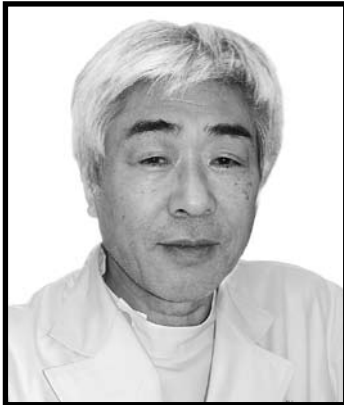


やすらかに 横山先生



(故 横山 成樹 先生)
2010年8月17日(逝去)
(享年74歳)

横山成樹先生を偲んで

宮城厚生協会 理事長 水戸部 秀 利

横山成樹先生は、かねてから前立腺癌で療養中でしたが、治療の甲斐なく、去る8月17日(ご子息宅で旅立たれました。享年74歳でした。ご遺族にとっても、私たちにとても、突然の旅立ちで悔みきれない思いです。

横山先生は、1964年に東北大学医学部を卒業し、インターン後、東北大学第一外科に入局しました。佐久総合病院での2年間の診療を経験し、1969年に宮城厚生協会に入職しました。農村医学や地域医療をライフワークとし、父親の開業地であった中

厚生協会だより

2010年9月21日
第 303 号

発行
(財)宮城厚生協会

〒985-0835
宮城県多賀城市下馬
二丁目13番7号
TEL 022-361-1113
FAX 022-361-1124
発行人：長 澤 清 光

新田の診療所を舞台に外科医としてのみならず、今でいう家庭医・総合診療医として加美郡の地域医療に邁進してきました。長年、加美郡医師会の役員も担っていました。

横山医院(現在の中新田民主医院)の院長を務める傍ら、20年以上にわたって宮城厚生協会の理事、2002年の定年後も嘱託医、顧問として私たち宮城厚生協会の事業に最後まで貢献されました。

横山先生は、医学部時代から社会衛生部に所属し、医学連執行委員を担うなど活躍していました。若き日の社会正義の信念を生涯、貫かれた方でした。無差別平等の医療という確固たる理念を持ちながらも、私たち後輩をやさしく鼓舞してくれる存在でした。その温厚な人柄はみんなに親しまれ尊敬されていました。宮城民医連の19名の青年医師が、先生のもとで診療所研修を行い、地域の医療要求に

応える医師としての基本姿勢を学ばせていただきました。私も研修医時代に、横山医院の2階に書生のように寝泊まりして診療所研修をさせていだきました。古風な手術室での虫垂炎の手術、絶妙な先生の手さばきは今も鮮明に記憶に残っています。

横山先生には、もう一つ、詩人・文化人としての顔もありました。本音は医師より詩人になりたかったようです。「大手礼二郎」をペンネームとし、宮城県詩人会のメンバーで、「風の思惑」という詩集も出版しております。(※『日中現代詩人朗読会in仙台』協会だより288号・2008年3月発行に掲載)

8月21日の合同葬(横山家、宮城厚生協会)では、地域の合唱団が横山先生の自作詩「春」を歌って送ってくれていました。お寺での読経と合唱の組み合わせは私にとって初めてでしたが、横山先生の幅広さを改めて感じました。戦後65年、横山先生の求めた社会正義は、まだ足踏み状態ですが、大きな転換の時代にさしかかっています。私たち後進に伝えるべきものを多く残したままの早すぎる旅立ちですが、地域医療を担う医師の基本姿勢、社会正義への思い、豊かな文化など、その片鱗でも、私たちは想像たくましく引き継いでいきたいと思えます。

故 横山成樹先生の略歴

1937年1月4日 仙台市北四番丁に生まれる
1958年4月 東北大学医学部医学課程入学
1964年3月 東北大学医学部医学科卒業
1964年4月 秋田県立中央病院にて実地修練
1965年4月 東北大学医学部第一外科入局
1965年7月 長野県厚生連佐久総合病院勤務
1967年7月 東北大学医学部第一外科帰局
1969年1月 宮城厚生協会坂総合病院勤務
1970年1月 横山医院開設
1973年1月 横山医院、宮城厚生協会に加入
1973年6月 財団法人宮城厚生協会理事に就任
1984年4月 加美郡医師会理事に就任
1988年8月 宮城県地域医療対策協議会会長表彰
1989年1月 中新田町長表彰
1990年9月 中新田民主医院(横山医院移転新築・名称変更)・院長
2002年3月 定年退職・中新田民主医院名誉院長に就任
2002年10月 財団法人宮城厚生協会顧問に就任
2006年4月 加美郡医師会副会長に就任・県医師会代議員
2010年8月17日 午前11時43分 永眠

「がんのリハビリテーションの研修」へ参加して

がん患者のQOL維持のためリハビリの大切さ痛感



青柳雅貴看護師

感銘を受けた講義、 有意義だった グループワーク

東京の昭和大学で7月10、11日に開催された「第1回がんのリハビリテーション研修会」へ富山先生、PT工藤さん、OT藤丸さんの4名で参加させてもらいました。

主に講義とグループワークが中心でしたが、いかにがん患者に対するリハビリテーションが必要か、その効果がもたらす結果が患者のQOL維持へ大切だということを感じさせられました。

当院の現状紹介

少し当院の現状を紹介させていただきます。当院でもがん患者に対するリハビリテ-

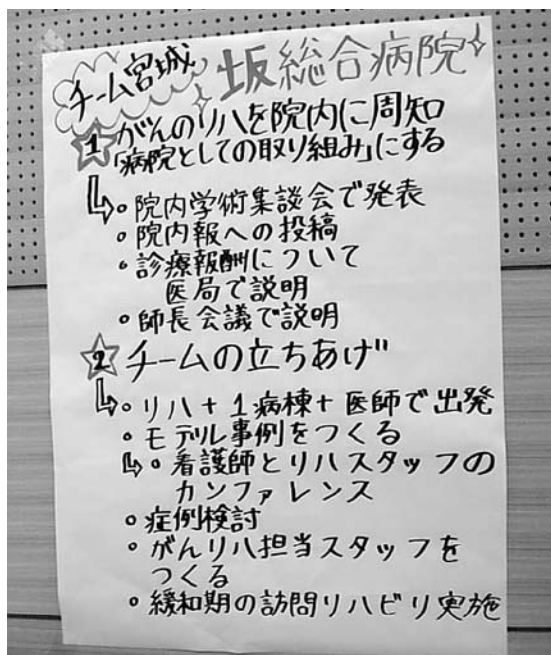
坂総合病院7階病棟看護師 青柳雅貴

ションは行われています。特に術前・術後患者は、ほぼルーチン化されリハビリテーションのオーダーが入っております。しかし私の勤務する消化器病棟ではがん患者

に対する目的のリハビリテーションは行われておりませんが、がん患者に対するリハビリテーションは、術前・術後



問題解決のための資料作成中の藤丸さん(左)と富山先生



「当院の問題解決」今後へ向け4人で作成した表

患者・化学療法中の患者・緩和ケア対象患者・予防期→回復期→維持期→緩和期の全ての段階で適応となります。

7階病棟には緩和目的・術前・術後・化学療法などほぼ全ての時期に該当する患者様が入院されています。ある日の統計ではこれらに該当する患者様がベッド数46床中、40名の患者様が該当されていました。

看護師としてがん患者のリハビリテーションに対しどのように関わっていけばよいかわかりませんが、対象となる患者への導入を積極的に提案し患者のQOLのため微力ながら私自身も尽力したいと考えています。

「がん」と「癌」の違いは？

今回の診療報酬改訂でがん患者のリハビリテーションが算定可となりました。その基準の一つとしてがん患者対策チームとして今回の研修へ参加することが条件としてありました。がん患者に対するリハビリテーションは患者・病院の双方にとって有益であり今後積極的に啓蒙活動を行い自身の知識・技術を高めていきたいと思っています。

一つ皆様に質問ですが、「がん」と「癌」の違いは解りますか？答えは研修に参加された4名の誰かに質問して下さい！



辻哲也先生（右）と富山先生

研修参加者のコメント

職員にがんのリハビリを知ってもらったのが最初の一步

リハビリテーション科科長
富山 陽介

当初は、診療報酬で算定できるようになるから、と内容にはあまり期待せず参加したのですが、終わってみると大変充実した内容と熱意ある講師陣に深く心動かされた二日間でした。がんの患者さん達のQOLを支える包括的な取り組みの重要な柱の一つにリハビリがあるのを様々な実例を通して知ることができました。

坂病院は、個別的にはいろいろやっていますが、まだ系統立ててやれているとは言えません。関連する科の先生方と連携しながら、がんの患者さん達のお手伝

いになるような取り組みを充実させていけたらと思います。

まずは職員の皆さんにがんのリハビリを知ってもらったことが最初の一步と思って、いろいろ取り組んでいきたいと思っています。

リハビリの更なる内容の充実を図っていききたい

理学療法士 工藤雄一郎

がん患者の療養生活の質の維持・向上が2006年6月に成立された「がん対策基本法」に組みこまれており、今回は運動機能維持・向上、生活機能維持・向上を目的に、また病期別リハビリの目的・実際の講義を詳しく受講しました。グループワークは、がん患者のリハビリ実施時の問題・対策、症例検討があり臨床に沿った内容で、また他職種との意見交換もでき大変勉強になりました。

当院でも8月から緩和病棟、乳癌術後の患者（入院の方）にがん患者リハビリテ

ション料を算定しております。今後、研修会での内容を参考に参加したスタッフとともに更なる内容の充実を図っていききたいと思えますのでよろしくお願い致します。

これからまだできることは多そう

作業療法士 藤丸 伸子

日本全国のDr・Ns・PT・OT・STが集まっていたので、各施設・職種の見解が聞け参考になりました。リハビリでは、8月からさっそく乳癌術後と緩和病棟の患者様でがんリハの単位を取得し始めています。

坂病院では他の施設に比べリハスタッフ数が充実しており、環境には恵まれているため、これからまだできることは多そうだと感じました。適応になりそうな患者様がいましたら、リハスタッフに声を掛けていただければと思います！



記念碑

古川民主病院、中新田民主
医院、友の会30周年記念事業
として準備されてきた記念碑
の除幕式と祝賀レセプション
が7月17日(土)の午後にお
こなわれました。
古川民主病院の前身である
古川民主診療所は1976年
5月開所、中新
田民主医院の前
身である横山医
院は1970年
1月開所、大崎
健康福祉友の会
の前身である古
川民主診療所友
の会も1976
年9月発足して
います。それぞ
れの事業所、友
の会ができてか
ら30年以上経過
していますが、
この間の歴史は
「10年史」「20年
史」にまとめら
れています。

困難が増している民医連
事業所の運営、車の両輪であ
る友の会も一進一退という困
難を抱えています。
こうした時だからこそ「民
医連運動の原点」に学び、逆
風を吹き飛ばす力にしたいと
の考えから、1年半前に病院
と友の会の代表で実行委員会
を組織して準備が開始されま
した。
事業としては「30年史」大
崎の地に民医連の火を」が
3月27日に発行され、現在
500部が地域や民医連関係
の皆さんの協力で普及されて
います。事業の締めくくりと
して、古川民主診療所発祥之
地である荒川小金町に記念碑

古川民主病院、中新田民主医院、友の会
30周年記念事業「記念碑の除幕式と祝賀レセプション」

「民診の原点」を学び、 困難に立ち向かう力もらおう

大崎健康福祉友の会事務局長 佐々木利一

「こうした時

だからこそ」と

準備開始

を建立しました。

彦坂先生が挨拶

「過去から学ぶことの
大切さ」を強調

祝賀会には古川民主病院初
代所長である彦坂先生、彦坂
先生からバトンを継いだ松浦
先生、古川民主病院現副院長
の菅原茂先生、学生時代から
古川民主病院、友の会との関
わりで入職した古川民主病院
歯科の駒形所長など多数の参
加で開催されました。

挨拶した彦坂先生は「過去
を懐かしむだけではなく、過



記念碑の除幕を行う彦坂先生(手前)



祝賀会で挨拶する松浦先生

去から学ぶことの大切さ」に
触れられ、古川民主病院や友
の会が10年、20年、30年とい
う大きな区切りで自分たちの
課題を整理し、今後の力にし
ていくことが大切であることを
強調されていました。
参加した会員、民主団体、
職員は「暗雲から青空が見え
てきたようだ」と話していま
した。

この事業には宮城厚生協会
内の多くの職員のご協力があ
って成功させることができました。
この紙面をお借りして
感謝申し上げます。

本部事務局が「ワンルーム」になりました

宮城厚生協会事務部長（人事管理担当） 平尾 伸二

宮城厚生協会本部事務局は、8月に壁の撤去工事を行い、総務部・人事管理部・経営管理部が開放的な「ワンルーム」となりました。訪れた職員や来客の方からは、「オフィスらしくなった」との声も。これまで諸手続きに訪れる職員が「これどこに持っていけばいいんですか?」と迷ったり、総務と人事2カ所に用事がある場合でも、これからは1カ所で済むようになりました。

まだご覧になっていない方は、坂総合クリニックにお越しの際には、ぜひ3階を覗いていてみてください。



開放的で明るくなった
本部事務局



汗だくで引越し作業に奮闘

わが家恒例の「ディズニーランド・ディズニーシー」へ

私の夏休み

泉病院総務課 引地 顕三

今年も8月14日～16日の日程で、わが家恒例の「ディズニーランド・ディズニーシー」へ。当初はゴールデンウィークの予定でしたが、自分と下の子が熱発でダメ。8月は体調に気をつけて過ごし、無事、3日間を楽しめました。

1日目はディズニーシーで新アトラクションの「タートルトーク」へ。最初はあまり期待していなかったものの、何故か映像(?)のカメと話すことができ、みんなの前で自分の名前を呼ばれいろいろと質問もされてとても不思議な感じでした。それ以外にも「アクアトピアのびしょ濡れコース」「チップとデールのクールサービス」など暑い夏にはぴったりのアトラクションショー

でした。

もう1度行きたい!

思っているだけです...

2日目はディズニーランドへ。かねてからの目標の「モンスターズ・インク」へ。しかし、ファーストパスが取れず待ち時間は140分。ひとまず他のアトラクションをまわり夜に再度チャレンジ。今度の待ち時間は90分。でも子どもたちが絶対にがんばるというので一緒にがんばり目標達成。夜の「エレクトリカルパレード」も幻想的で素晴らしかったし、閉園時間の夜10時まではあつという間でした。

余談ですが、あんまり楽しかったので今年もう1度行きたいと思っています。思っているだけですけど...

上/ディズニーシー 下/ディズニーワールド





美しいモレーンレイクにて。まもなく熊に出会う。



カナダ紀行 “夢のような8日間”

長町病院附属クリニック

リハビリ室 白木 勝

7月17日から8日間カナダに行って来ました。

■ 1日目

成田空港から約12時間でカナダ最大の都市トロントへ。路面電車が走る素敵な街です。

■ 2日目

ナイアガラフォールズへ。初めて見るナイアガラ瀑布の雄大さに驚きました。「霧の乙女号」に乗船し滝のシャワーを浴びながら滝直下の遊覧は爽快でした。

■ 3日目

トロント空港より国内線で2時間。カルガリーへ。更に車で3時間レイクルイーズへ。宿泊したホテルは山岳リゾートの雰囲気であり、周りには高山植物が咲いており、歌に出てくる「♪森と泉に囲まれて…」まさに『ブルーシャトー』を思わせるような佇まいです。

持参のウイスキーを飲もうと思ったら…

■ 4日目

いよいよカナディアンロッキーへ。まず、モレーンレイクとテンピークスへ行く途中、なんと野生の熊を見かけたり、可愛いマーモット（リス科の動物）に出会いました。モレーンレイクは絵葉書のような景色で、いつまでも離れがたい思いがしました。その後、コロンビア大氷原へ。何万年も前に降り積もった雪が圧縮され、やがて氷になり、氷河となって何千年という歳月をかけて先端部まで押し出されてくる。そんな氷河を地球温暖化などと騒がれているこの時代に無くしていいのか？ そんな事を思いながら氷河から流れてくる水で、日本から持っていったウイスキーの水割りを飲もうと思ったら（したら）…。なんと！カナダの法律では飲酒は決められた場所以外の公衆の面前で行った場合、罰金が科せられるとか。なかなか厳しい。日本のお花見のような事はできないのです。残念。

■ 5日目

バンフ近郊の山岳トレッキングへ。天気が良く剽軽なマーモットや可愛いリスなどがすぐ間近に出てきたり、日本では見られないような高山植物が沢山咲いており、とても感動しました。

■ 6日目

カルガリー空港に戻り国内線で約1時間バンクーバーへ。洗練されたお洒落な港町といった雰囲気。夜は美味しいワインとワタリ蟹に舌鼓を打ち、ちょっぴりゴージャスな雰囲気を味わいました。

■ 7日目

いよいよ帰国の途へ。バンクーバー空港より9時間、日付変更線を越えて8日成田空港へ到着。本当に夢のような8日間でした。



登山中出てきたマーモットは人なつこくて可愛い。